

長岡工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	物理学 I B			
科目基礎情報									
科目番号		0133		科目区分		専門 / 必修			
授業形態		講義		単位の種別と単位数		履修単位: 1			
開設学科		電気電子システム工学科		対象学年		4			
開設期		後期		週時間数		2			
教科書/教材		原康夫, 物理学基礎第5版, 学術図書, 2016年							
担当教員		佐藤 秀一							
到達目標									
(科目コード: 21106 英語名: Physics IB) ① 質点・質点系・剛体に関する各種の運動法則を理解する。 ② 運動法則を具体的な問題に応用することができる。									
ルーブリック									
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		最低限の到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		質点・質点系・剛体に関する各種の運動法則を詳細に理解している。		質点・質点系・剛体に関する各種の運動法則を理解している。		質点・質点系・剛体に関する各種の運動法則を概ね理解している。		左記に達していない。	
評価項目2		運動法則を具体的な問題に詳細に応用することができる。		運動法則を具体的な問題に度応用することができる。		運動法則を具体的な問題に概ね応用することができる。		左記に達していない。	
評価項目3									
学科の到達目標項目との関係									
学習・教育到達目標 c1									
教育方法等									
概要		力学的な諸現象を支配する基本法則について学ぶ。ここでは、質点の力学, 質点系の力学, 剛体の力学を扱う。							
授業の進め方・方法		基本法則を具体的な問題に適用できるよう演習も行う。							
注意点		微積分やベクトルの既習事項を確認しておくこと。物理学IAの内容をよく復習しておくこと。							
授業計画									
		週	授業内容			週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	保存力とポテンシャル			保存力とポテンシャルを理解する			
		2週	力学的エネルギー保存則			力学的エネルギー保存則を理解する			
		3週	演習1			1～3週の演習を行う			
		4週	質点の回転運動, ベクトルの外積			質点の回転運動, ベクトルの外積を理解する			
		5週	中心力と角運動量保存則			中心力と角運動量保存則を理解する			
		6週	演習2			4～5週の演習を行う			
		7週	質点系の力学: 質点系と剛体の重心			質点系と剛体の重心について理解する			
		8週	質点系の力学: 質点系の運動, 運動量保存則			質点系の運動, 運動量保存則について理解する			
	4thQ	9週	質点系の力学: 質点系の角運動量			質点系の角運動量について理解する			
		10週	演習3			7～8週の演習を行う			
		11週	剛体の力学: 剛体の運動方程式と剛体のつり合い			剛体の運動方程式と剛体のつり合いについて理解する			
		12週	剛体の力学: 剛体の回転運動と慣性モーメント			剛体の回転運動と慣性モーメントについて理解する			
		13週	剛体の力学: 剛体の平面運動			剛体の平面運動について理解する			
		14週	剛体の力学: 剛体の平面運動			剛体の平面運動について理解する			
		15週	演習4			1 1～1 3週の演習を行う			
		16週	期末試験 17週: 試験解説と発展授業			試験時間 80分			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標									
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週		
基礎的能力	自然科学	物理	力学	仕事と仕事率に関する計算ができる。		3	後1,後2		
				物体の運動エネルギーに関する計算ができる。		3	後1,後2		
				重力による位置エネルギーに関する計算ができる。		3	後1,後2		
				弾性力による位置エネルギーに関する計算ができる。		3	後1,後2		
				力学的エネルギー保存則を様々な物理量の計算に利用できる。		3	後1,後2		
				物体の質量と速度から運動量を求めることができる。		3	後8		
				運動量の差が力積に等しいことを利用して、様々な物理量の計算ができる。		3	後8		
				運動量保存則を様々な物理量の計算に利用できる。		3	後8		
				周期、振動数など単振動を特徴づける諸量を求めることができる。		3	後12		
				単振動における変位、速度、加速度、力の関係を説明できる。		3	後12		
				等速円運動をする物体の速度、角速度、加速度、向心力に関する計算ができる。		3	後4,後5		
				力のモーメントを求めることができる。		3	後4,後5,後9		
				角運動量を求めることができる。		3	後4,後5,後9		

			角運動量保存則について具体的な例を挙げて説明できる。	3	後4,後5,後9
			剛体における力のつり合いに関する計算ができる。	3	後7,後8,後11
			重心に関する計算ができる。	3	後7,後8,後11
			一様な棒などの簡単な形状に対する慣性モーメントを求めることができる。	3	後11,後12
			剛体の回転運動について、回転の運動方程式を立てて解くことができる。	3	後11,後12,後13

評価割合					
	試験	課題	小テスト	合計	
総合評価割合	50	30	20	100	
基礎的能力	25	15	10	50	
専門的能力	25	15	10	50	